

[様式14]

(対象事業：1. 子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：日本画を楽しむための教材開発・活用
事業

事業者名：高崎市タワー美術館

連携事業館名：無

住所：群馬県高崎市栄町3番23号

TEL：027-330-3773

FAX：027-321-7277

HPアドレス：http://www.city.takasaki.gunma.jp/soshiki/art_museum/t/index.htm



①施設概要

当館は、平成13年11月に高崎市立第2の美術館として、JR高崎駅東口前の「高崎タワー21」内に開館した。日本画を中心とした展覧会を年間5～6回開催し、日本画家を招いての講演会や、学芸員による作品解説会を実施するほか、画材の展示やワークショップにより、日本画の教育普及活動に取り組んでいる。

②事業の意図目的

「日本画を楽しむための教材開発・活用事業」は、伝統的絵画である日本画について学習する機会を提供することを目的としている。岩絵具の色や粒子を観察するほか、膠や筆などの画材、屏風の構造や歴史を学ぶための教材を作製し、教材を用いたワークショップや出張授業を実施することにより、学校では取り上げることの少ない日本画に関する教育普及活動をおこなうものである。

③事業概要

本事業では、日本画に関する教育普及活動を目的として、岩絵具の色や粒子を観察し、原石との比較をする「岩絵具BOX」、屏風の構造と歴史について学ぶ「屏風」、岩絵具をはじめとする日本画の画材や技法を解説した「日本画カード」の3種類の教材開発をおこない、教材を活用したワークショップと出張授業を実施した。天然岩絵具の粒子や原石、本格的な屏風をとおして、伝統的な日本絵画の画材や技法に触れることで、日本の歴史について学習することが可能となった。3種類の教材の組み合わせやポイントを変えることにより、小学校低学年の授業から生涯学習の講座として、幅広く活用することができる。

教材開発に際しては、学校現場でのスムーズな活用を目的とし、市内小中学校の美術担当教師と日本画家と協議を重ね、アンケートや出張授業を実施した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（岩絵具BOX、屏風、日本画カード）

作成した報告書等

ビデオ（

冊子（

その他（

）

）

）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 178 人

内 訳 ワークショップ 小学生22人、出張授業 小学生156人

(1) 事業の実施状況について

本事業については、以下のスケジュールで実施した。

平成19年 9月12日 第1回打合せ

9月～10月 小中学校においてアンケート調査実施

10月17日 第2回打合せ

平成20年 2月9日、17日 日本画ワークショップ実施

2月18日 城東小学校において出張授業（2年生3クラス）

2月19日 城東小学校において出張授業（2年生2クラス）

2月20日 第3回打合せ

3月 6日 高崎市図工・美術主任会にて事業報告

3月 7日 倉渕東小学校において出張授業（6年生1クラス）

3月下旬 ポスター・ちらし発送（県内全小中学校）

本事業は、日本の伝統的絵画である「日本画」に関する教育普及活動を目的とした教材開発ならびに活用事業である。最初に、小中学生を対象としたアンケート調査を実施して現状把握および分析をおこない、日本画の知識を習得するという視点ではなく、小学校低学年の児童でも楽しみながら学習できる教材を目標とした。

一般的に、日本画は岩絵具を用いて紙や絹に描く絵画と定義されており、岩絵具は天然の岩石や貝を砕いた粒子の大きさにより色調の濃淡を得ている。したがって教材では、原石と天然岩絵具を比較し、粒子の状態を観察することを中心に、室内空間を仕切る調度品としての役割を担う屏風の歴史と形態、さらに、膠や筆、紙や絹といった画材や絵画の形態などを学習する内容とした。これら3種類の教材を用いたワークショップと出張授業を実施した。

(2) 地域との連携について

事業の実施に際し、市内小中学校の図工・美術担当教師3名と日本画家1名による協議をおこなった。作製する教材を効果的に活用するには、学校現場を知る教員の的確なアドバイスが不可欠であり、また、岩絵具の標本作製などは専門家の技術が必要となることから、美術館で考案した教材の内容や活用方法について意見交換をおこなった。

最初に、児童・生徒を対象としてアンケートを実施し、日本画に関する認識の調査をおこなった。アンケート結果から、「日本画」ということばを知っていても、「岩絵具」や「膠」などの画材に関する知識は極めて低いことが判明し、それらを結びつける教材開発の重要性が再認識された。教材完成後には、小学校2校で出張授業をおこなったが、授業構成を変化させて教材の活用方法を検討した。

こうした連携により、美術館と学校の相互理解と協力の意識が高まり、児童・生徒の教育という共通の目標に向かう足取りが近づいたように思う。協議に参加した教師を核として、そうした意識は広がりを見せつつあり、美術館と学校がそれぞれの役割を担い、協力することで、より充実した教育を実現する可能性が広がったと思われる。

日本画家との関係においては、作品を制作する画家と公開する美術館という異なる立場から、教材開発という同じ目的に向かう協力者として近しく活動をおこなうことで、

画家は美術館事業に対する理解を深め、また、美術館は日本画の技術的な面についてさまざまな知識を得ることができた。専門家からの実技に関する情報は、教材を活用する出張授業において非常に有用であるだけでなく、通常の美術館活動においても有益であることは間違いない。

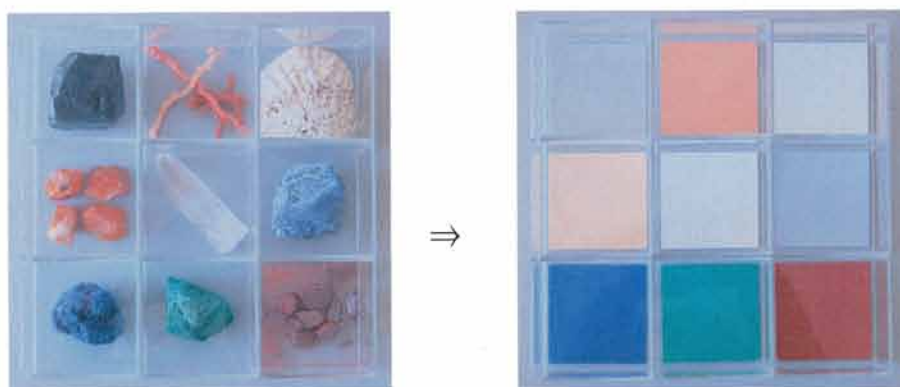
本事業の実施により、展覧会事業だけでは成立し得ない地域との連携が実現されたが、多分野の人々との交流や関係性構築は、今後の美術館活動において貴重な財産となる。出張授業を継続しつつ、事業で得た関係性をさらに拡大していくことが必要である。

(3) 成果物について

本事業では、以下に掲げる3種類の教材を作製した。

①うきうき岩絵具BOX

- ・天然岩絵具と原石をアクリルケースに入れて比較する。
- ・粒子の大小による色調の変化を観察する。
- ・岩絵具の粒子を25倍に拡大して観察する。



岩絵具の原石

岩絵具

[寸法・数量] アクリルケースA 縦8.0×横8.0×高5.5 (cm) -18個
 アクリルケースB 縦6.0×横24.0×高5.5 (cm) -4個
 単眼鏡9本、トランク1

②わくわく屏風

- ・屏風を用いて岩絵具や箔など日本画の技法を紹介する。
- ・屏風の形状や名称、歴史について解説する。



屏風 (表面)

屏風 (裏面)

[寸法] 各 120.0×120.0 (cm)

[数量] 二曲一双屏風

③どきどき日本画カード「日本画のひみつ」

- ・岩絵具の色調の変化や拡大した粒子を観察する。
- ・箔や筆、膠などの画材や日本画の技法、形状について学習する。

[寸法] 縦 14.8×横 21.0 (cm)

10 枚 1 組

[数量] 2,000 部



日本画カード

また、教材の活用を促進するために、教材について解説し、出張授業を募集するためのポスター・ちらしを作成し、県内の小中学校に郵送した。

(4) 参加者の反応

作製した教材を用いた出張授業を6クラスで実施し、そのうち5クラスは小学校2年生、1クラスは小学校6年生であった。2年生は、事前に開催中の日本画展を鑑賞していたため「美術館で見た絵は何で描かれているか」ということを主眼とし、作品図版を掲示することで記憶を想起させ、作品と岩絵具が結びつくように配慮した。低学年ではあるが、児童は石が絵具になることに深い興味を示し、また、原石の種類によっては石の色と絵具の色調が異なることに気づいた発言や、身近にある石との比較についての意見などが出された。授業後の感想文でも、水晶のように名前を知る石が絵具として使われていることを知った驚きや、原石の美しさに触れた喜びが記入されていたほか、どのように絵具が作られるのか疑問を投げかける児童もあった。



出張授業 (2月19日・小学2年生)

一方、6年生の授業では事前に担当教師と打合せを重ねた結果、歴史や理科と関連づけた内容として児童の考える時間を設けながら教師が進行し、詳細な説明を学芸員がおこなった。さらに、絵具の製造工程を紹介する映像や、ビデオカメラを用いて絵具の粒子を拡大して映写するなど、教材を活かすことを考慮した。児童それぞれが、石がどのように絵具になるのか、また色調の違う理由などについて考えた後、教材を観察して説明を聞くことで、単なる知識ではない深い理解につながったようであった。授業に使用したプリントには、絵具の粒子を拡大すると単一ではなく、異なる色調が混在することの指摘や、粒子の煌きに対する感動などが記入されており、細かい点も観察していたことがわかった。



出張授業（3月7日・小学6年生）



ワークショップ（2月17日・小学生）

岩絵具で描くワークショップでは、講師の日本画家が教材を使って岩絵具について説明をした後、岩絵具と膠液を混ぜる方法を教えたため、低学年の児童でもスムーズに理解することができたようである。岩絵具に触れることは、全参加者（小学2年～6年）が初めての経験であったが、指で絵具を混ぜることを楽しみながら、色紙に花や樹木を描き上げた。

（5）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

日本画は伝統的な日本文化でありながら、小中学校の教育現場で取り上げることが少なく、歴史の授業で紹介する程度である。しかし、岩絵具や膠、和紙や絹などの画材も繊細な技法も、日本特有の技術によって長期間伝承されてきた、世界に誇るべき文化である。当館では、こうした日本画を紹介する展示や教育普及活動をおこなってきたが、平成19年度芸術拠点形成事業の実施により、美術館活動を体系的に進めるための基礎が確立されたと考えられる。

従来は、展覧会事業に対する比重が高く、そのなかで画材などを紹介してきたが、本事業により作製した3種類の教材は本格的な内容であり、館内での作品解説会やワークショップで用いることで、日本画に対する理解を深めるための貴重な資料となった。図工・美術においては鑑賞授業が重視されているが、教材を組み合わせることで、より豊かな授業が実現できると思われる。

また、小中学校はもとより、公民館等での生涯学習活動にも活用できる教材として、館外における日本画の教育普及活動を可能にした。本教材を用いた出張授業は、図工・美術の単元に限ることなく、歴史や理科の観点から実施することも可能であり、日本画に対するアプローチは多角的であることがわかった。県内小中学校に対するポスター・ちらしの送付により、出張授業の要請が4校から届いており、今後さらに多くの依頼が寄せられると思われる。

さらに、本事業の実施により、地域の小中学校ならびに作家との交流が実現したことは、美術館活動の可能性を大きく広げることを意味している。美術館が教育活動の一翼を担うことのできる存在であることが理解され、今後、展覧会鑑賞以外にも美術館の活用が図られるであろう。美術館は来館者を待つだけでなく、能動的に活動をおこなう必要があり、本教材は有効な手段となる。

(6) 新聞記事等
○新聞記事

日本画の出張授業 児童の心がっちり

高崎市タワー美術館

高崎市タワー美術館（同市栄町）の出張授業「おもひの日本画教室」が好評だ。このほど、高崎市倉沢町の市立倉沢東小学校（関根和子校長）8年の児童18人が、絵そのものではなく、絵の具やびょうぶなど画材について学んだ。写真。

児童たちは、岩や貝殻、サンゴなどを砕いた粉に動物のかわを混ぜてつくられた「岩絵の具」の説明に興味津々。新井貴也さん（じ）は「作り方を教えてもらって、昔の人の大変さが分かった。関根校長も「日本文化の歴史は社会科で、鉱物は理科で学んだ。そろそろこれを美術で見えて確認できるのは良い機会だ」と話した。

出張授業は、国の文化芸術水準の向上を目指す文化庁芸術振興事業にも採択されている。県内の小中学生や生涯学習活動を主な対象に、希望者を募集している。申し込みや問い合わせは同美術館（027・3330・3773）へ。



朝日新聞（13版・第2群馬版）平成20年3月15日 朝刊 34面

日本画の魅力伝えたい



日本画の出前授業を受ける高崎城東小の児童

独自の美術教材製作 高崎市

高崎市は日本画の魅力を見学生徒に伝える独自の美術教材を製作した。文化庁の芸術振興事業の補助を受け、市タワー美術館が行った。

絵の具や技法紹介

開発した美術教材は①「うきうき岩絵の具」②「うきうき岩絵の具」③「うきうき岩絵の具」④「うきうき岩絵の具」⑤「うきうき岩絵の具」⑥「うきうき岩絵の具」⑦「うきうき岩絵の具」⑧「うきうき岩絵の具」⑨「うきうき岩絵の具」⑩「うきうき岩絵の具」⑪「うきうき岩絵の具」⑫「うきうき岩絵の具」⑬「うきうき岩絵の具」⑭「うきうき岩絵の具」⑮「うきうき岩絵の具」⑯「うきうき岩絵の具」⑰「うきうき岩絵の具」⑱「うきうき岩絵の具」⑲「うきうき岩絵の具」⑳「うきうき岩絵の具」㉑「うきうき岩絵の具」㉒「うきうき岩絵の具」㉓「うきうき岩絵の具」㉔「うきうき岩絵の具」㉕「うきうき岩絵の具」㉖「うきうき岩絵の具」㉗「うきうき岩絵の具」㉘「うきうき岩絵の具」㉙「うきうき岩絵の具」㉚「うきうき岩絵の具」㉛「うきうき岩絵の具」㉜「うきうき岩絵の具」㉝「うきうき岩絵の具」㉞「うきうき岩絵の具」㉟「うきうき岩絵の具」㊱「うきうき岩絵の具」㊲「うきうき岩絵の具」㊳「うきうき岩絵の具」㊴「うきうき岩絵の具」㊵「うきうき岩絵の具」㊶「うきうき岩絵の具」㊷「うきうき岩絵の具」㊸「うきうき岩絵の具」㊹「うきうき岩絵の具」㊺「うきうき岩絵の具」㊻「うきうき岩絵の具」㊼「うきうき岩絵の具」㊽「うきうき岩絵の具」㊾「うきうき岩絵の具」㊿「うきうき岩絵の具」

新年度 県内で出前授業も

文化庁は本年度の芸術振興事業で全国五十団体の事業を採択、高崎市の教材製作費百八十万を全額補助した。出前授業は新年度から本格実施を前に二月下旬、高崎城東小の二年生五クラスで試験的に行った。授業に先立って和紙の画材を説明し、児童がタワー美術館で日本画を鑑賞していた。市は教材のほか、出前授業を紹介するポスターやチラシを作製し、小中学生の文化活動の機会を拡大する。市は教材のほか、出前授業を紹介するポスターやチラシを作製し、小中学生の文化活動の機会を拡大する。

上毛新聞 平成20年3月16日 朝刊 10面

同様の新聞記事 毎日新聞（群馬版）平成20年3月8日 朝刊 24面
読売新聞（13版・群馬2）平成20年3月9日 朝刊 30面